

【2026 度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
ソーシャルワーク実習 A		選択	2	4	夏季 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
田村 正人	B308	masato.tamura		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的>精神保健福祉士としての専門的知識と技術の理解に基づき、精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得することを目的とする。</p> <p><概要>障害福祉サービス事業所や行政機関等での現場体験を通し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを旨とする。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	精神保健福祉士としての知識、技術、価値を基盤とし、自身の実習計画に基づき主体的に学びを得る姿勢を持つことが求められる。				
教科書	最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]/編：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟/中央法規出版				
参考書	必要に応じて資料を配布する。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	精神保健福祉士としての専門的知識と技術の理解に基づき現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。			HC(1)~(6)	
②	精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題について把握する。			HC(1)、(3)、(5)	
③	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。			HC(1)~(2)	
④	総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。			HC(1)~(5)	
⑤	自己覚知を深める。			HC(4)、(6)	
⑥					
授 業 計 画					
<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働大臣が定める障害福祉サービス事業所や行政機関等の実習施設において、16日間かつ120時間以上の実習を行う。 実習前教育、実習中教育、実習後教育という継続的かつ一体的な指導を受ける。特に、実習中は、実習指導者による指導、そして、担当教員による巡回指導および帰校日指導を受け、実習での取り組みを振り返り、考察しながら、学びを深める。 [巡回指導時間(個別)] (60分×1日=1時間) [帰校日指導時間(個別)] (90分×3日=4.5時間) 実習記録(実習日誌)を作成し、提出する。 					
[実習指導者による指導内容]					
実習では、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。					
ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成					
イ 利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成					
ウ 利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)との相談支援関係の形成					
エ 利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)への権利擁護及び相談支援(エンパワメントを含む。)とその評価					
オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加					
カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守					
キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚					
ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察					
ケ 当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察					
コ 実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察					
サ 実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション 実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案					
				必要時間 (単位:時間): 120	

【2026 度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

学習課題・学習時間							
実習記録（実習日誌）を毎日作成し、翌朝実習指導者に提出する。							
必要時間（単位：時間）：							16
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	0	0	100	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	20	20
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	10	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	20	20
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	実習日誌に記載した内容を評価する。また、実習の取り組み状況および成果等について評価する。				個別にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	社会福祉士を有し、13年の実務経験がある。						
実践的授業の内容	教員自身の対人援助職の実務経験にもとづき、対人援助職として必要な価値・知識・技術を教授する。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士資格取得希望者は必ず履修すること。 ・止むを得ず遅刻・欠席する場合は、しかるべき手順を踏んで対応すること。 ・学外実習を実施するが、実習先及び教員が示す方法を遵守すること。 ・上記、指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。 						